

鎌田 純一（かまた・じゅんいち）

1、プロフィール

昭和 34 年歌誌「青森古今」を創刊、編集発行人。東北短歌大会選者、東奥日報社主催県短歌大会選者、県歌人懇話会副会長等を歴任して、本県歌壇の向上、発展に貢献した。

<生没>

1910(明治 43)年3月 31 日 ~ 1987(昭和 62)年1月 11 日

<代表作>

歌集『北の貌』『雪は匂へり』

<青森との関わり>

西津軽郡鱒ヶ沢町に生まれる。

2、作家解説

昭和6年「ポトナム」短歌会入会、小泉荃三に師事する。21年、福田栄一主宰の「古今」の創刊に参加し、特別同人となる。34年、歌誌「青森古今」を創刊、編集発行人。東奥日報社主催青森県短歌大会選者、日本歌人クラブ主催東北短歌大会選者、陸奥新報社主催県下短歌大会選者、昭和49年(第1回)より開催した鱒ヶ沢町県下短歌大会を主宰するなど、数多くの要職をつとめた鎌田純一は、本県歌壇の指導的役割を果たすとともに、50余年にわたる弛みなき短歌の作家活動を通して数多くの優れた作品を発表した。特に、歌集『北の貌』は、思索的叙情を指標とする意欲的な異色歌集として注目された。「青森古今」主宰者、鱒ヶ沢町短歌会会長並びに県歌人懇話会副会長として、後進の指導に尽力し多くの歌人を育成する一方、現代歌人協会、日本歌人クラブを通じて中央歌壇との交流をはかり、青森県歌壇振興のためのパイプ役をつとめるなど、本県文化の向上、発展に貢献した。

歌碑に次のものがある。

いのちあるものみな美し癒えてむく雑木林に霧氷咲くなり(歌集『雪は匂へり』平成4年、鱒ヶ沢町高沢寺建立)

青森県歌人賞(昭和44年)、青森県歌人功労賞(昭和52年)、鱒ヶ沢町文化賞(昭和54年)、青森県文化賞(昭和60年)受賞。

3、資料紹介

○歌集『雪は匂へり』

図書

1987(昭和62)年12月20日

188mm×128mm

遺歌集。『北の貌』刊行以後の歌約500首を収める。編者中村道郎は「本歌集に見る純一の世界は、自虐も抵抗も既に越え、永い間の凝視の上に確信し得たもの、即ち厳しくも美しい風土におのずからなる生のかなしみをこめて歌おうとした」と述べている。